

TFT検定 2019 公式テキスト

TFT test 2019 official textbook

TFT検定2019 公式テキスト

TFT test 2019 official textbook

発行
株式会社 日本旅行

企画・製作
シェアザハート協会

監修
認定特定非営利活動法人
TABLE FOR TWO International

世界の食料問題

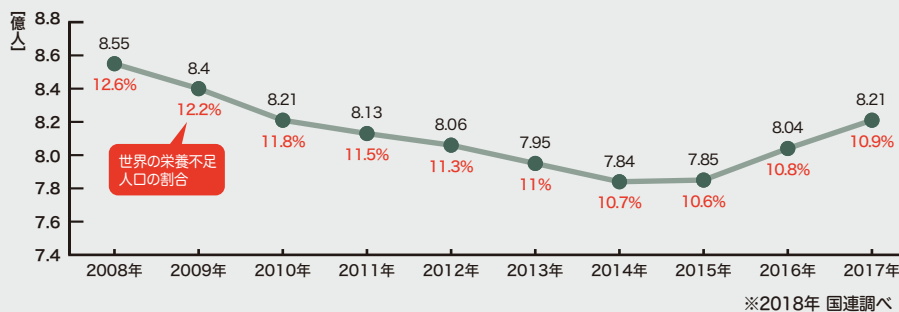
食の不均衡問題について

世界では約8億2,100万人が飢餓で苦しむ一方で、成人の約10人に1人が肥満と見なされます。このような「食の不均衡」は、世界の食糧問題の一つとされます。

飢餓

世界には、子どもたちに栄養のある食べ物を与えられない親がたくさんいます。すべての人が食べるのに十分な食料が生産されている一方で、8億2,100万人(世界人口の9人に1人)がいまだに毎晩空腹を抱えたまま眠りについてます(国連発表)。さらに、3人に1人が何らかの栄養不良に苦しんでいるのが現状です。

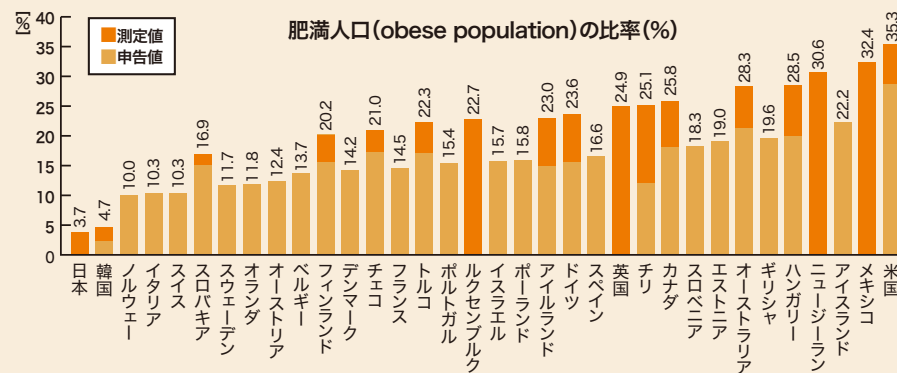
世界の栄養不足人口



肥満

世界の186カ国を対象とした、肥満度をはかるためのBMI(体格指数)の最新の調査によると、世界の肥満人口は6億4,100万人(男性 2億6,600万人、女性 3億7,500万人)に増加した。「肥満は2型糖尿病や高血圧、心臓病などの疾患を引き起こします。有効な対策をしないと、各国の医療体制の崩壊を招く要因となります」と研究者は指摘している。

肥満比率の各国比較 (OECD諸国、2013年までの最近年)



途上国



78%

の人口が



60% の穀物を消費

食の不均衡

先進国



15%

の人口が



30% の穀物を消費

たくさん捨てている私たち

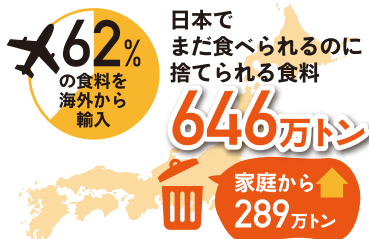
世界では毎年、食用に生産されている食料の3分の1にあたる13億トンが捨てられています※1。日本のような先進国では、「食べ残し」や「賞味期限切れ」など消費段階で捨てられる食べ物が多いためです。一方で、開発途上国では、同じ時期に農作物がたくさん収穫できて「適切に保管できない」「加工するための技術が十分でない」「適切に運ぶための手段やガソリンを買うお金がない」などの理由で、必要な人に届く前にムダになっています。



※1 国連食糧農業機関 (FAO) (2011年)

日本の食糧問題

日本の食料自給率は38% (カロリーベース)。6割の食料を海外からの輸入に頼っています。先進国の場合、国民が食べることに困らないように十分な食料を自分の国で生産し、さらには輸出をしている国が多いなかで、めずらしいことです。それに関わらず、日本では毎年2842万トンの食料が捨てられていて、食べ残しや賞味期限切れなど、まだ食べられるはずのものが646万トンもあります。そのうちの357万トンは事業者から、289万トンは家庭から出ています。



フードロス

本当であれば食べられるはずだったにも関わらず、捨てられてしまう食べ物=フードロス。一体、何が問題なのでしょうか。FAOの報告書によると、フードロスが与える影響のひとつとして地球環境への負荷が上げられています。フードロスによって排出される温室効果ガスの量 (二酸化炭素換算) は36億トン。世界の温室効果ガス排出量の約8%です※2。気温の上昇や雨の降り方などの気候の変化、干ばつや洪水などの異常気象によって食べ物を育てる環境が厳しくなるなか、その影響を大きく受けるのは、アジアやアフリカなどの最貧国に住む小規模な農家です。

※2 国連食糧農業機関 (FAO) (2015年)

COLUMN 明日からできる取り組み

持て余している食材をみんなで持ち寄り、おいしく変身させる。そんな楽しくフードロスを解消しようという取り組みが、「フード・サルベージ・パーティー」。捨てられるはずだった食材が減り、新しいレシピも見つかる。身近でフードロスに対してできることの一つです。

2030年までに飢餓をゼロに

まだ食べられる食べ物をたくさん捨てている日本でも、約2000万人の人たちが貧困ライン以下 (全人口の中央値の半分に満たない所得) で生活していて、なかでもひとり親世帯や高齢者の割合が高いです。生きるために最低限必要な食べることさえも十分ではない人たちがいることは、世界も日本も同じです。国際社会は、持続可能な開発目標 (SDGs) の中で2030年までに「飢餓をゼロに」することを約束しています。「食べる幸せ」をみんなで分かち合える世界にするために、必要なのは私たち一人ひとりの行動です。



SDGsとは?

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

SDGs (持続可能な開発目標) は、2015年9月に国連加盟国193か国が全会一致で採択した行動計画。貧困や飢餓、平和的社会など17目標から成り、2030年までに目標を達成することを目指しています。TABLE FOR TWOは、SDGsが掲げる17の目標のうち主に7つに貢献します。

世界を変えるための17の目標

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 9 産業と技術革新の基盤をつくる |
| 2 飢餓をゼロに | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 4 質の高い教育をみんなに | 12 つくる責任つかう責任 |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 6 安全な水をトイレを世界中に | 14 海の豊かさを守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 15 陸の豊かさを守ろう |
| 8 働きがいも経済成長も | 16 平和と公正をすべての人に |
| | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |

TFTが貢献する7つの目標

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



15 陸の豊かさを守ろう



17 パートナーシップで目標を達成しよう



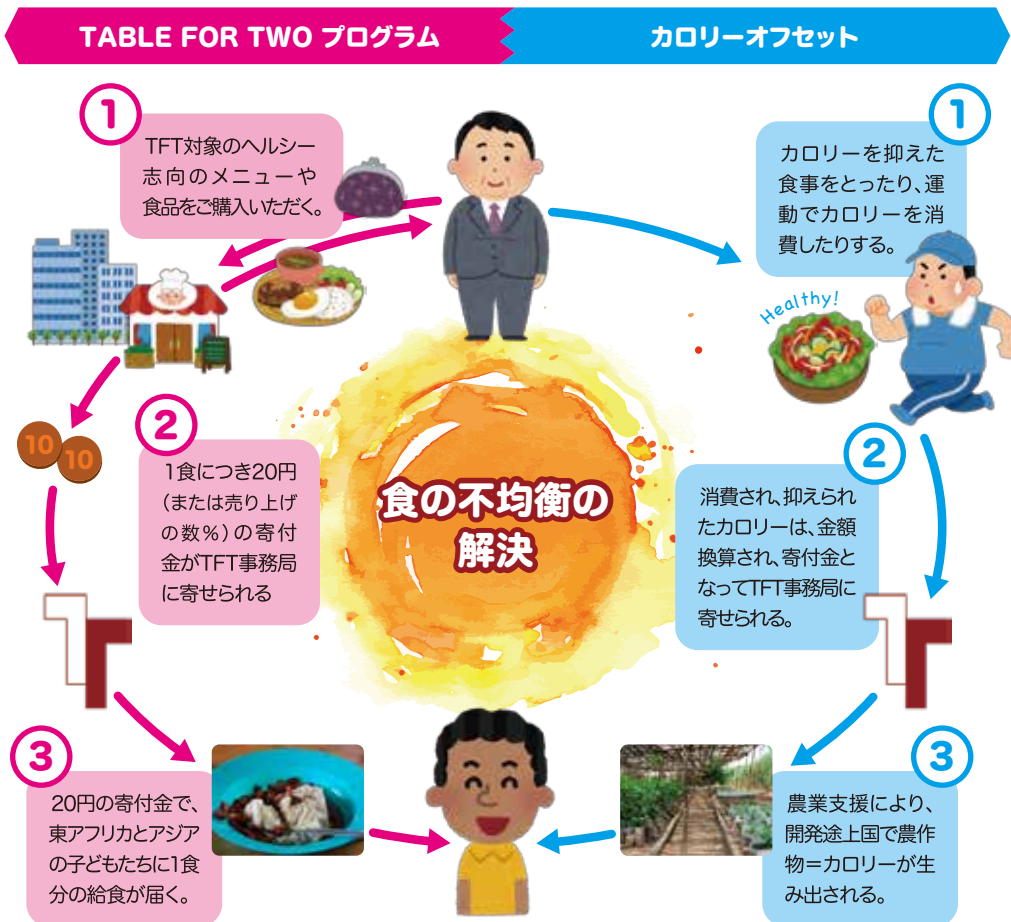
TFTについて

About TABLE FOR TWOとは

世界人口73億人のうち、11億人が飢餓・貧困に苛まれている一方で、22億人が肥満・生活習慣病に苦しんでいます。

TABLE FOR TWO (TFT)は、このような食の不均衡を解消し、開発途上国と先進国双方の人々の健康を同時に改善することを目指す日本発の社会事業です。

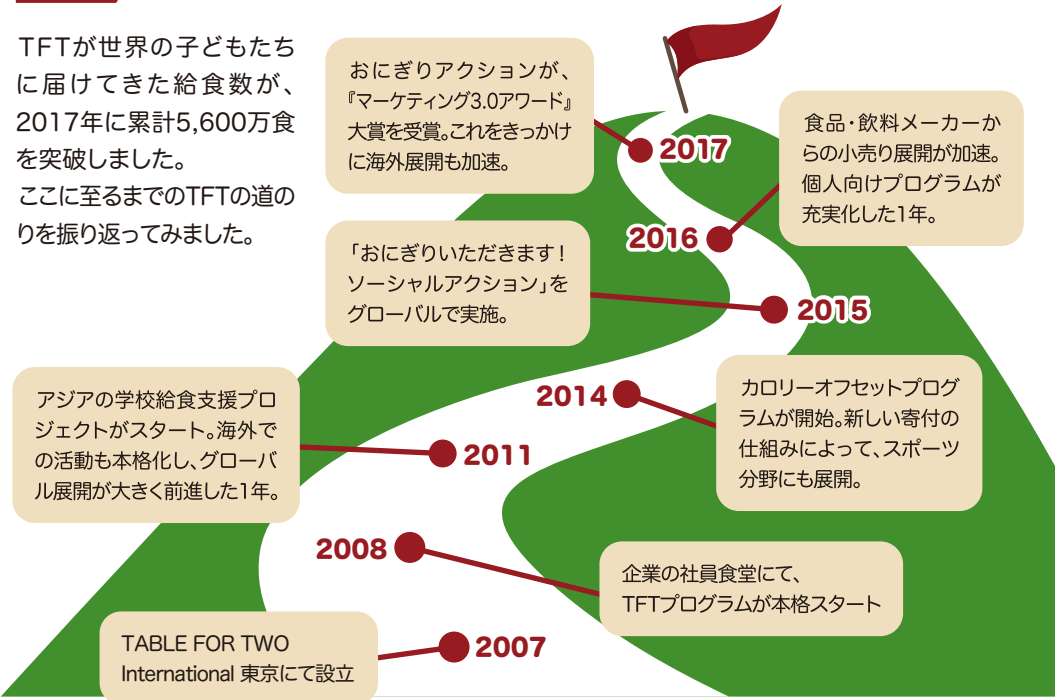
1 学校給食プログラム



※寄付金のうち最大20%をTFT事務局の運営費に充てています。

2 TABLE FOR TWO これまでの歩み1

TFTが世界の子どもたちに届けてきた給食数が、2017年に累計5,600万食を突破しました。ここに至るまでのTFTの道のりを振り返ってみました。



3 TABLE FOR TWO これまでの歩み2

TFTは、2007年のダボス会議の世界経済フォーラムで日本のヤンググローバルリーダーズたちが考え出した、従来の寄付一辺倒でない画期的なシステム。その規模は年々大きくなっています。



TFT導入団体数は年々増加しており、2017年末時点には、717団体で導入されています。

TFTの対象メニューを購入してくださった方は年間のべ960万人です。

日本発の社会貢献活動であるTFTは、徐々に日本から世界各地へ活動の場を広げてきました。

先進国と開発途上国に住む “私たち”地球人みんなの未来のために

先進国でTFTのヘルシーメニューを食べることで、その1食がアフリカやアジアで温かな学校給食1食に生まれ変わります。アフリカ・アジアでは、学校給食は子どもたちにとって非常に大きな役割を果たしています。

1 学校給食プログラムについて

対象となる定食や食品1食につき20円(開発途上国の給食1食分の金額)の寄付金が、TABLE FOR TWOを通じて開発途上国の子どもの学校給食になります。先進国で1食とるごとに開発途上国に1食が贈られるという仕組みです。

学校や地元コミュニティと協働し、小学校や幼稚園に通う子どもたちへ温かい給食を届けています。学期中のランチタイムに、地元の食材を用いた栄養価の高い給食を生徒たちへ提供しています。



これまでの実績

2007年の設立以降、TFTはこれまで、56,840,608食の温かい栄養豊富な給食を、アフリカ・アジア諸国に暮らす子どもたちへ届けてきました。

(2017年末時点)

2017年に日本国内外でのTABLE FOR TWOプログラムで寄せられた寄付で、約962万食の給食を提供することができました。



小学校の
就学率が
100%に!

60%弱

2007年
(TFT設立)

100%

2017年

2 菜園プログラムについて



TABLE FOR TWOでは、支援先地域の持続可能な開発のために、学校菜園や地域菜園の設置とトレーニングの実施や、地元の零細農家の農業生産性向上のための支援プログラムも手がけています。

給食事業を運営するための資金提供と教育支援を行い、軌道に乗り定着した後は、現地の人たちが自分たちの力で給食事業を続けていくことを目指しています。そのため、できる限り資材の調達や調理を現地の人、特に子どもたちの両親の協力を得て実施するようにしています。



持続可能な農業を展開することを通じて、農業生産性向上のための指導や環境整備を実施し、自発的にカロリーを生み出していく仕組みづくりをしています。学校菜園では、給食に用いる原材料の一部も生産しています。

COLUMN TFTが届ける給食

給食は子ども達の元気の源。給食がもたらす様々な効果

TFTが届けている給食は、その国によって異なります。できる限りその土地で採れる食材を用い、子どもたちがより多くの栄養を摂取できるように配慮しています。支援先の一つ、ルワンダのバンダ村の様子をご紹介します。バンダ村はルワンダの中で最も貧困率の高いニャマシケ群に位置しています。山に囲まれた自然豊かな村ですが、アクセスの悪さから産業が発展せず、電気、水道、ガス

などのインフラも整っていません。平均世帯収入も、1日あたり約1ドルという深刻な貧困状況にあります。TABLE FOR TWOでは村の幼稚園、小・中学校に通う2,300名の生徒に給食を提供しています。支援先の一つであるルワンダのバンダ村では、給食を始めてから生徒数が大幅に増えました。数年前に小・中学校を中退してしまった子どもたちが、給食をきっかけに学校に再び戻ってきました。



支援地域での活動事例報告

TFTでは、東アフリカと東南アジアの6カ国(ウガンダ、エチオピア、ケニア、タンザニア、ルワンダ、フィリピン)を中心に、学校給食の提供と菜園・農業支援を行なっています。各国抱える課題はそれぞれ違い、TFTでは現地の事情に合わせた活動をしています。

- 学校給食プログラム実施
- 学校菜園プログラム実施

Federal Democratic Republic of Ethiopia エチオピア連邦民主共和国



首都アディスアベバ近郊の小学校で給食プログラムを支援しています。学校に通う生徒の人数が増え、授業中の集中力も上がりました。現在では、約1,000人の子どもたちが温かい給食を食べて、元気に学校生活を送っています。

Republic of the Philippines フィリピン共和国



フィリピン教育省が定めた小学生に対する健康基準により、「やせぎみ」「栄養失調」と診断された子どもたちへ、栄養バランスの整った給食の提供を行っています。また家庭での食生活改善のための両親への調理指導、栄養価の高い作物の安定的な供給を目的とした農業指導も実施されています。

Republic of Rwanda ルワンダ共和国



ルワンダは、「千の丘の国」と呼ばれる自然豊かな内陸国です。南西部ニユングエ国立公園内に隣接するバンダ村で、幼稚園3園と小・中学校2校で、およそ2,300人の生徒に給食を支援しています。またルワンダの複数地域で学校・コミュニティ菜園の設置を支援しています。

United Republic of Tanzania タンザニア連合共和国

タンザニアは、近年は経済的にも成長を続けています。一方で、農村部における貧困率は依然として高いまま。ザンバル諸島の特に貧困家庭が多い2つの地域の小学校9校で学校給食を支援し、タンザニア本土では学校・コミュニティ菜園の設置を支援しています。



Republic of Kenya ケニア共和国



ケニアはコーヒーや生花栽培など、農業を主要な産業とする国です。天候に左右されやすく、旱魃などの際

には深刻な影響を受けてしまいます。世界で2番目に大きい淡水湖ビクトリア湖に浮かぶムファンガノ島とルシंगा島の幼稚園と小学校で、2011年秋から給食を提供し、ケニア国内の複数地域で学校・コミュニティ菜園の設置を支援しています。

COLUMN

地元で採れる食材 開発途上国で栽培されている作物をご紹介します

TFTが学校給食を支援している多くの小学校に菜園が併設されています。イモ、豆、トウモロコシといった穀物の他、オクラ、ピーマン、にんじん、トマトなどが栽培され、学校給食の材料の一部として用いられています。調理法は各国で様々ですが、材料自体は日本でもなじみ深いものほとんどです。オクラがアフリカ原産で、現地でも「Okra」と呼ばれていること、あなたは知っていましたか？



TABLE FOR TWOプログラムについて

TFTは肥満と飢餓という、現在の世界が抱える食の課題の解消を目指し、ヘルシーメニューを推奨しながら開発途上国の学校給食を支援するという一石二鳥のプログラムを推進しています。世界14か国、日本国内外で約720の企業・団体にご参加いただいています。

1 社員食堂プログラムについて

社員食堂やレストランでTABLE FOR TWOのロゴマークのついたメニューを購入すると、1食につき20円がTABLE FOR TWOを通じて開発途上国の子どもの学校給食になります。2017年までの約10年間で、日本国内外でのTABLE FOR TWOプログラムへの参加企業・団体数は700を突破。食堂から始まったプログラムは、レストランやスーパー、自動販売機やコーヒーマシン(CUP FOR TWO)、さらに披露宴など、様々なかたちで広がっています。



TFTメニューガイドライン

1 一食あたりのカロリーが、通常よりやや低く抑えられている

デスクワークが主な職場: 680~800kcal
工場や軽作業を伴う職場: 720~870kcal

2 栄養のバランスがとれている

3 野菜を多く含む

※厚生労働省の定める「日本人の食事摂取基準(2010年度)」を参照。一日の運動量により幅があります。

学生の活動

全国約100大学 約1,200人の学生が所属するTABLE FOR TWO University Association(TFT-UA)は大学内外で様々な活動を行っています。

全国100以上の大学でTFTメニューが導入されています。大学祭での導入やカフェイベントの開催、規格外野菜を利用した料理教室など食に関連したイベントを始め、1ゴールごとに開発途上国に給食をプレゼントできる、TFT-UA主催のフットサル大会を開催。2017年秋には、20チームの大学生と社会人が参加し、3,468食の学校給食を届けました。



2 カロリーオフセットについて

TABLE FOR TWOが考えた新しい仕組み「カロリーオフセット」※1。カロリーオフセットは、「SAVE CALORIE, SAVE WORLD～あなたがオフしたカロリーが、誰かのカロリーになる～」をスローガンに、先進国の余分なカロリーを開発途上国で必要なカロリーに変換するプログラムです。

健康を意識した食品(従来よりもカロリーを抑えている商品や低カロリー商品など)や、体を動かすことでカロリーを消費できる商品・サービス、およびイベントなどが、カロリーオフセットプログラムの対象となります。カロリーオフセットマークが付いた対象商品の購入やサービスの利用、イベントで体を動かすことで、カロリーをオフセット※1でき、売上の一部が寄付金となります。

※1「オフセット」とは、「差し引き勘定」「埋め合わせ」の意味

カロリーオフセットの特長

1 対象商品 ・カロリーオフ/カットされている商品
・元々低カロリーの商品

3 食品のみならずフィットネスなど様々な分野で展開



3 支援先でカロリーを生み出す仕組み

寄付金は、開発途上国での菜園づくりなどを通して、農業生産向上の指導やインフラ整備など、自発的にカロリーを生み出すための支援に充てられます。

COLUMN 世界に広がる食堂・レストランプログラム

世界中に広がるTFTプログラム。ここではアメリカの活動を紹介します。

TABLE FOR TWOの仕組みは、海を越えて海外にも広がっています。2017年現在、アメリカをはじめスイス、ドイツなどヨーロッパの国々、ノルウェー、サウジアラビア、そして香港やベトナム、オーストラリアなど計14か国で活動を展開しています。アメリカでは、低所得世帯が多い学校の子どもは全員、公費で一定額まで給食費用が無料になります。ただ、限られた食材費では、冷凍

ピザやポテトフライ、糖分の多い飲料など、肥満になりやすい「不健康な食事」に偏りがちであり、それによる子どもの肥満率上昇が社会問題化しています。TABLE FOR TWO USAでは現在、このような問題の解決に向け、アメリカで6校を支援しています。その財源は地域の企業からの寄付。TFTのプログラムを取り入れているある投資銀行では、社員食堂でTFTメニューを注文すると、

1食当たり25セントが地域の学校での健康的な給食のための寄付に充てられます。TFTプログラムは開発途上国の飢餓問題だけでなく、アメリカの肥満問題解決にも一役を買っています。



3 世界に広がるTFTとおにぎりアクション

「おにぎりアクション」は、世界食料デー(10月16日)のキャンペーン期間中に「日本の食で世界を変える」をコンセプトに、日本の代表的な食べ物で、かつ親子から子へ、おばあちゃんから孫へと誰かのために想いを込めて握るおにぎりを通じ、アフリカおよびアジアの子どもたちに温かな給食を届けます。おにぎりにまつわる写真を撮影しハッシュタグ「#OnigiriAction」を



付けてInstagram やTwitter、FacebookなどのSNSに投稿すると、アフリカ・アジアの子どもたちに学校給食が届く取り組み。基本的には写真1枚あたり給食5食が送られ、その費用は国内21・海外19の協賛企業・団体が負担します。2015年からスタートし、これまで写真27万枚・100万人が参加、計200万食の学校給食が途上国に送られました。

おにぎりアクションの仕組み



あなたの写真投稿が、アフリカ・アジアの給食に

必要なのはおにぎりだけ！期間中は何度でも投稿でき、無料！おにぎりにまつわる写真の特設サイトに投稿すると、賛同団体から写真1枚あたり給食5食分が寄付されます。さあ、みんなで参加しよう！

日本発、世界に広がるグローバルキャンペーン！

日本・米国に拠点を置く企業35社が賛同し協賛。全国のスーパー、ECサイト、レストラン、レシピサイトなど約700企業・団体が参加

おにぎりアクション

検索

参加の様子



ピラミッド前でもおにぎりアクション！



小学校で楽しくおにぎり作り



おにぎりを追いかける！農機具でクイディッチを再現



ハートおにぎりで愛を表現！

学生の活動

25字



80字

COLUMN 和食育について

“Wa-Shokuiku”は、TFTが推進する日本初の食育プログラム



成人の約40パーセント、2～19歳の約20パーセントが肥満とされるアメリカ。

「和食育“Wa-Shokuiku”」は、そんなアメリカの子ども達に和食や和食文化を教えるTFTが独自に開発した食育プログラムです。

おにぎり、お寿司巻き、味噌汁、お好み焼きなどの象徴的な和食や、ヘルシーでおいしい和食の作り方などを学ぶとともに

に、お弁当と一緒に食べることで、お箸のエチケット、食への感謝「いただきます」「ごちそうさま」、そして「もったいない」精神に「腹八分」まで、食について幅広く学べるプログラムとなっています。肥満解消以外にも、食品廃棄、不健康な食事、食の安全について和食を通じて学びます。



社員食堂の具体例

TABLE FOR TWO Program—企業・団体の取り組み—

各企業・団体では、旬の食材にこだわったヘルシーメニューを開発したり、TFTプログラムを周知させるための掲示物を作成したりと、TFT対象メニューを選んでもらうための様々な工夫がなされています。ここではその事例を3つご紹介します。

株式会社ポーラ/株式会社グリーンハウス

ポーラは、TABLE FOR TWOの創設時から社員食堂でTFTプログラムを導入しています。食堂を運営するグリーンハウスと協力し、社員の皆さんがヘルシーな食事を美味しく、楽しく食べられるメニューやイベントが日々考案されています。化粧品会社らしい、美肌メニューを対象にしたり、アフリカの給食を再現して提供するなど、数々の素晴らしい企画が実施されています。



大和証券株式会社



本社にある24Cafeにおいて寄付付きのビスコッティの販売や、2017年からは新たにTFTメニューの導入も始めました。毎日替わりで世界のランチメニューを販売いただいております。オフィスにしながら美味しく健康的なお惣菜を手軽に食べられる、ぶち社食サービス「オフィスおかん」にて、TFT寄付つきコースを設定いただいております。

神戸山手女子高等学校

社会科の授業でTFTを学んだのをきっかけに、生徒たちが主体となって様々な取り組みを行っています。寄付つきで、おにぎりや姉妹校のあるニュージーランドにちなんだキウイフルーツを販売し、熊本地震以後は、復興支援を兼ねて熊本産のヘルシー飲料やドーナツもTFT対象商品に加えています。また、学外にTFTを広める活動でも貢献しています。



COLUMN

TFTが提案する 食の安心安全コラム

最近、「食の安心安全を」という言葉をよく耳にします。まだ記憶に新しい中国製冷凍ギョーザによるメタミドホス中毒や、さまざまな産地偽装、賞味期限改ざんなど、食品が関係する問題が起こるたびに、TVキャスターのコメントは「安全安心を!」、新聞も、食品メーカーのキャッチフレーズも、政治家さえも、「安全安心を!」と少々しつこいくらいです。インターネットで《安全安心》とキーワード検索をすると、まちづくりや学校づくりなど食品以外の分野でも使用され、



インターネット接続サービスの分野では「安全・安心マーク」というものまで登場しているようです。

この「安全」と「安心」という言葉、一緒にするとリズムも語呂も良くなり、記憶にも残りやすくなります。そのため「安全安心」と一緒に使われることが多いようですが、実はまったく意味が異なるということを読者の皆さんにはご理解いただいているでしょうか？

では、この違いは、いったい何でしょうか？

まず、食品の「安全」とは、専門家による試験や調査などで得られた科学的証拠にもとづいて確保されるもので、そこで得られた科学的証拠の評価結果をもとに健康影響などのリスクが除かれる、または許容範囲に留められている状態を言います。

一方、「安心」とは、消費者など受け取る側の一種の気持ちの問題であって、食品への心配とか不安が取り除かれている状態を言います。



食の安心と安全を届けたい。そんな当たり前で、大切なこと。安全で美味しい食事を提供できるよう、「食の安心と安全」はTFTの最重要課題

まず、食品の「安全」とは、専門家による試験や調査などで得られた科学的証拠にもとづいて確保されるもので、そこで得られた科学的証拠の評価結果をもとに健康影響などのリスクが除かれる、または許容範囲に留められている状態を言います。みなさんもバランスの良い食事を心がけましょう！

TFT検定 模擬問題

ここまで学んできたTABLE FOR TWOについて、最後にテストを行います。このテストに合格すると、あなたは学校内でTFTについて他の生徒に教える資格を得ることができます。

1 世界の食糧問題

- Q1** 2017-2018年の世界の人口を選びなさい。
①63億人 ②73億人
③83億人 ④93億人
- Q2** 2017年における世界の飢餓人口の割合を選びなさい。
①約5% ②約7%
③約11% ④約14%
- Q3** 世界の人口に占める先進国の割合を選びなさい。
①5% ②10%
③15% ④20%
- Q4** 世界の穀物生産高のうち、先進国に集まる割合を選びなさい。
①30% ②40%
③50% ④60%
- Q5** 飢餓の撲滅を世界の食糧生産と分配の改善と生活向上を通して達成するのを目的とする、国際連合の専門機の略称を選びなさい。
①WFP ②TFT
③FAO ④CFS
- Q6** 2009年度の日本の食物廃棄率を選びなさい。
①約20% ②約30%
③約40% ④約50%

2 TFT

- Q1** 世界で栄養失調に苦しむ人の人数を選びなさい。
①約7億7,000万人 ②約8億1,500万人
③約9億2,500万人 ④約10億人
- Q2** 世界で食べ過ぎが原因で肥満状態にあるひとの人数を選びなさい。
①約4億4,100万人
②約5億4,100万人
③約6億4,100万人
④約7億4,100万人
- Q3** TFTの創設された年度を選びなさい。
①2005年 ②2006年
③2007年 ④2008年
- Q4** TFTの創設された国を選びなさい。
①日本 ②インド
③スウェーデン ④アメリカ
- Q5** 2017年現在、TFTプログラムが稼働しているのは何か国かを選びなさい。
①14か国 ②15か国
③16か国 ④17か国
- Q6** TABLE FOR TWOプログラムで対象となる定食や食品を購入すると、1食につきいくら寄付されるかを選びなさい。
①10円 ②20円
③30円 ④40円
- Q7** 2017年現在、TABLE FOR TWOプログラムに参加している団体数を選びなさい。
①517団体 ②616団体
③716団体 ④816団体

- Q8** TFTのコンセプトが生まれたとされる国際会議を選びなさい。
①先進国首脳会議
②世界経済フォーラム
③国連サミット
④世界食糧サミット

- Q9** TFTが学校給食プログラムを実施していない国を選びなさい。
①バングラデシュ人民共和国
②ウガンダ共和国
③ルワンダ共和国
④フィリピン共和国

- Q10** 食堂向けTABLE FOR TWOガイドラインでヘルシーメニューとして推奨しているカロリーは何かカロリー程度かを選びなさい。
①530kcal ②630kcal
③730kcal ④830kcal



- Q11** TABLE FOR TWOの仕組みをコーヒーマシーンや喫茶スペースに取り入れたプログラムの名称を選びなさい。
①CUP FOR TWO
②DRINK FOR TWO
③BOTTLE FOR TWO
④WATER FOR TWO

- Q12** TFTを支援する大学生による学生連合の略称を選びなさい。
①TFT-CA ②TFT-UA
③TFT-CF ④TFT-UF



- Q13** 「世界食糧デー」は何月何日か、選びなさい。
①9月16日 ②10月16日
③11月16日 ④12月16日

- Q14** 毎年「世界食糧デー」を記念し行われる、日本でヘルシーメニューを食べることで、アフリカとアジアの子どもたちに100万食の給食を届けることを目指すキャンペーンの名称を答えなさい。

()

- Q15** TFTがSDGs17の目標のうち、貢献課題に挙げていないものを選びなさい。
①4.質の高い教育をみんなに
②15.陸の豊かさを守ろう
③16.平和と公正をすべての人に
④17.パートナーシップで目標を達成しよう

3 世界の食料問題に対して、あなたが身近で今すぐに取り組めると書くことを書きなさい。



解答

1 世界の食糧問題

Q1 ② 73億人 (p.00)

Q2 ③ 11% (p.4-5)

世界196カ国のうち、約150の国が開発途上国とされます。先進国は世界のほんの一部なのです。

Q3 ③ 15% (p.4-5)

世界196カ国のうち、約150の国が開発途上国とされます。先進国は世界のほんの一部なのです。

Q4 ① 30% (p.4-5)

毎年世界では25億トンの穀物が生産されています。一人あたりに換算すると先進国は開発途上国に比べ約2.4倍の消費していることとなります。

Q5 ③ FAO (p.6)

①は国際連合世界食糧計画。食糧欠乏国への食糧援助と天災などの被災国に対して緊急援助を施し、経済・社会の開発を促進する国際連合の機関である。④は世界食料安全保障委員会。国連の下に設置された政府間プラットフォームで、世界の食料問題に関する政策のレビュー・フォローアップを行う。

Q6 ① 約20% (p.6)

2 TFT

Q1 ② 約8億1,500万人 (p.4)

世界の9人に1人。さらに3人に1人が何らかの栄養失調に苦しんでいます。

Q2 ③ 6億4,100万人 (p.5)

男性約2億6,600万人、女性：約3億7,500万人。

Q3 ③ 2007年 (p.9)

Q4 ① 日本 (p.8)

Q5 ① 14か国 (p.9)

日本、アメリカをはじめスイス、ドイツなどヨーロッパの国々、ノルウェー、サウジアラビア、そして香港やベトナム、オーストラリアなど。

Q6 ② 20円 (p.8,10,14)

Q7 ③ 716団体 (p.9)

Q8 ② 世界経済フォーラム (p.9)

経済、政治、学術、その他の社会におけるリーダーたちが連携することにより、世界・地域・産業の課題を形成し、世界情勢の改善に取り組む、独立した国際機関。

Q9 ① バングラデシュ人民共和国 (p.12-13)

Q10 ③ 730kcal (p.14)

デスクワークが主な職場：680～800kcal
工場や軽作業を伴う職場：720～870kcal

Q11 ① CUP FOR TWO (p.14)

Q12 ② TFT-UA (p.14)

TABLE FOR TWO University Association。
全国100大学、約1,200人の学生が所属。

Q13 ② 10月16日 (p.16)

国連が毎年10月16日と定めた、世界の食料問題を考える国際デー。

Q14 おにぎりアクション (p.16)

Q15 ③ 16.平和と公正をすべての人に (p.7)

SDGsとは、持続可能な開発目標とは、持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲットからなる、国連の開発目標。

3 記述問題 回答例

- ・食事は残さず食べる。余った食材は工夫して使い切る。
- ・フード・サルベージ・パーティーを開催する
- ・地元で採れる食材を選んで食べることで、食料自給率を上げる
- ・バランスがよく健康な食生活を選ぶ など



TFT検定2019公式テキスト

2019年□月□日 第1刷発行

企画・製作 シェアザハート協会

監修 認定特定非営利活動法人

TABLE FOR TWO International

発行 株式会社 日本旅行

□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□

印刷 □□□□□□□□□□□□□□

製本 □□□□□□□□□□□□□□

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。